

未解決のものが解決したときや、長引いた試合の勝敗が決まったときなどに「やっとこの問題にけりをつけることができました。」「延長戦のすえ、逆転ホームランで勝負にけりがついた。」などと言います。「けりをつける」または「けりがつく」は「決着がつく」「終結する」等の意味ですが、この語源は「蹴り」ではなく、古語の助動詞「けり」だそうです。この助動詞「けり」は過去や詠嘆の意味を表す助動詞で、和歌や俳句などで感動を表すのに「～なりけり」（～だったなあ）や「～ありけり」（～あったなあ）など「けり」で語を結ぶ（終わる）ことが多く、物事の終わりや結末を迎えることを意味するようになったと言われているそうです。百人一首の例です。

山川に 風のかけたる しがらみは 流れもあへぬ 紅葉なりけり

山の谷川に風がしかけた柵（しがらみ）と見えたものは、流れようとして流れきらずにいる紅葉の葉であるようだなあ。

他にも、平家物語に節をつけ、琵琶とともに語る平曲（へいきょく）などの語り物に由来するという説もあります。平曲では語り始めを「そもそも」と始め、語りの最後を「けり」で納めるからだそうです。

さて、暑い暑い夏休みが終わりました。今年も多くの生徒に夏期講座を受講していただき、ありがとうございました。「こんにちは！」と教室に汗だくで入ってきて、その汗をぬぐいぬぐい授業に取り掛かる生徒。授業が終わり教室を出るなり「暑い～!!」と叫んで帰る生徒。今年の夏の暑さを物語っていました。猛暑が続く中、エアコンの効いた部屋でだらだらとした生活が恋しいかもしれませんが、そんな生活にはけりをつけ、気持ちを切りかえて学習に取り組んでいきましょう。この2学期に学習する内容は、各学年とも入試によく出題される分野が盛りだくさんです。一つひとつをきちんと理解していきましょう。

定期テスト対策講座のご案内

自啓館ではテスト対策講座を行っています。「今受講している教科のさらなる点数アップ」、「受講していない教科が心配。」、「推薦を狙っているので、定期テストでしっかり点をとって、内申点をあげたい。」、「家ではなかなか勉強がはかどらない。」こんなことを考えている生徒は是非ご利用ください。この講座は随時開講していますので、詳細については各教室長にお尋ねください。

【教科】 英語・数学・国語・理科・社会
1講座（70分×2コマ）

